

今回訪れたのは、宮下通沿いにある旧上川倉庫群「蔵囲夢」です。地元産のレンガで作られた6棟の倉庫は、1898(明治31)年に創業した上川倉庫のもので、旭川の開村から間もない1900年から1913年にかけて建てられました。2001年には国の有形文化財にも登録され旭川の歴史を物語る貴重な倉庫群として市民の関心も高いだけに、たくさんの宝物と出会えそうです。

まずは、今も現役で使われている事務所棟の横を通り、手前右側に建つ倉庫へ。中をのぞくと、おしゃれなインテリア雑貨や地元のクラフト製品などが並ぶショップのようです。店名は「インテリーニ」といい、住空間をトータルにコーディネート提案してくれるお店なんですね。心地良く上品な展示はさすがといったところでしょうか。店内にはカフェがあり、紅茶の試飲サービスも。今度ゆっくり遊びに来たいと思いました。



店を出て次に向かったのはコレクション館「チアーズギャラリー」です。東海大学芸術工学部教授の織田憲嗣(おだ のりつぐ)さんが収集した世界各国の椅子を常設展示しています。「世界的にも最大規模で、椅子のデザイン史を研究する上で第一級の資料といえます。毎年多くのデザイナーや研究者が遠く



から訪れるんですよ」と話すのは、同館を運営・管理する旭川デザイン協議会の江口抄織(えぐち さおり)さん。レンガの壁がやや白っぽいのは、覆っていた漆喰(しっくい)をはがした際の名残らしく、何ともいえぬ味わい深い雰囲気を作り出しています。同館では年内いっぱい「スツールづくり展」を開催中のこと。スツールと一口にいってもデザインは驚くほど多様で実に面白い。次の企画展も楽しみです。

コレクション館の隣の「デザインギャラリー」では、アトリエ・デシモーネさんによるステンドグラス作品展が行われていました(10月3日で終了)。ここは市民ギャラリーとして活用され、ほぼ週替わりで展示会が開

催されているんですね。作品はどれも完成度が高く、旭川市民の文化度の高さを垣間見た気がしました。訪れるたびに新しい出会いがありそうです。



最後に訪れたのは、エリアの中央に位置する「大雪地ビール館」。

異業種交流グループの有志が「旭川でも地ビールを作ろう」と立ち上がり1996年にオープンした同館は、倉庫を生かした高い天井と広いホールが印象的です。醸造長の千葉卓司(しば たくじ)さんが生み出す地ビールは、ジャパン・ビア・グランプリをはじめ、国内最大規模のビールコンペティションで数々の賞を受賞しており、市民が大いに誇りにして良いものではないでし



忙しい日々の合間に、心潤す紅茶のひとときを。



最初に訪れた「インテリーニ」さんで紅茶の試飲サービスを受けたのですが、これがとてもおいしかった。「ショコトリュフ」という甘いミルクショコラートのような香りと味わいの紅茶で、うれしいサービスでした。同店では、横浜「La Maison d'Epice(ラ・メゾン・デピス)」直営のティーサロンから“シーズンティー”を入荷しているそうで、併設のカフェ「Salon de the(サロン・ド・テ)」で提供しているほか、茶葉の販売も行っています。世界各国から厳選された茶葉のみを取り扱い、道内ではここでしか手に入らないものも多いとか。一服の紅茶がもたらす心の潤いは、日常のささやかな喜びとなることでしょう。

